

会 議 録	
附属機関又は 会議体の名称	第3回 男女平等推進センター運営委員会
事務局(担当課)	男女平等推進センター
開催日時	令和6年10月15日(火) 午後3時～5時
開催場所	男女平等推進センター研修室 2
出席者	委員 須藤 啓光 濱口 恵子 大越 将良 高橋 あかね 岸 知秀 松本 憲藏 矢口 節子 阿部 達明 鈴木 美千花 長島 千代美 渡辺 寛子 男女平等推進センター所長
	事務局 4名
会議公開の可否	公開・非公開・一部公開 傍聴人 0名
非公開・一部公開 の場合はその理由	
会議次第	議題 1 運営委員会委員長及び副委員長の選出 2 事業報告および今後の予定について 3 エポック10 フェスタ2025 について ・実行委員の選出 ・企画検討 4 連絡事項
審議経過	
事務局	令和6年度第3回豊島区男女平等推進センター運営委員会を開会する。
事務局	—委員紹介、事務局紹介—
	【議題1】運営委員会委員長及び副委員長の選出 委員長は須藤委員、副委員長は濱口委員に決定。
事務局	本日傍聴希望者なし。
	【議題2】事業報告および今後の予定について
事務局	資料2-1 「R6年度第3回運営委員会 事業報告(庶務・計画調整 G)」の説明
	—委員からの質疑および意見—
委員長	私は男女共同参画推進会議の委員でもあり、まさに前回の会議で困難女性支援基本計画の話が出た。私は、今回の困難女性支援基本計画では、女性という括りの中で具体的にどういった支援がされるのかを質問し、支援の枠組はこれから策定されると回答してもらった。都議会でも同じ質問をできる機会があり、東京都でもこれからいろいろ作っていくと回答をもらっている。豊島区は東京都の動きに連動して、足並みをそろえて困難女性支援基本計画の支援を進

めていくということであった。

**事務局** 資料 2-2 「R6年度第3回運営委員会 事業報告(事業企画G)」の説明

—委員からの質疑および意見—

**委員** 男子校の本郷学園で、デート DV 予防教室や文化祭でのすずらんスマイルプロジェクトのパネル展示や妊婦体験ブースを設置したとのことだが、なぜ男子校でやったのか。

**所長** デート DV 予防教室は、区立の中学3年生にはすでに実施しており、特別支援学級や中学1年生、2年生にも広げている。私立の中学校には昨年デートDV予防教室の案内をしたが、やりたいという希望が無かった。今回、すずらんスマイルプロジェクトで本郷学園と繋がり、デートDV予防教室の話をしたところ、ぜひとのことで開催できることになった。本郷学園には社会部という部活があり、生理のことを学んだり、いろいろ社会課題を研究しており、男子生徒にもデートDVのことを知ってもらいたいということであった。また、本郷学園の文化祭に、すずらんスマイルプロジェクトの展示をするのはいかがでしょうかと提案をいただき、パネル展示や妊婦体験コーナーを作らせてもらった。

**委員長** 学校と連携をとり、世代を超えてしっかり社会課題に向き合うということは素晴らしいと思う。ここ最近、学校と豊島区の連携が増えてきている。今年のエポック10フェスタでも高校生が発表してくれたり、パネル出展してくれた。また、大学の授業にも参加させていただいたりなど、幅広い活動が増えている印象がある。

エポック10の場合、どうしても年配のスタッフ・メンバーがそろってしまう傾向があり、若い人たちとの接点を新しく築き上げることはいいことであると思う。

**委員** 若い世代が地域活動になかなか興味を持ってくれない中で、豊島区は先進的な取組をしていると感じる。

**委員長** 学校と連携をとるのは大変だと思うが、すずらんスマイルプロジェクトをフックにかなり増えてきていると思う。

**所長** フェスタでアンコンシャスバイアスについて、大正大学の学生が発表してくれたが、優秀賞となったチームが、現在、アンコンシャスバイアスのポスターを作ってくれている。

**委員** イベントやセミナーの日程と実施時間に関して、仕事をしながら平日の昼間に参加というのはなかなか難しいと思う。当事者になる前にこういうセミナーに参加する機会があればいいと思うが、なかなか当事者にならないと意識をもって参加することが難しい。土日とか平日夜やるとか、その辺はいかがか。

**事務局** 共催事業については団体より開催日程の要望があり、それに合わせて実施する形をとっている。主催の講座については企画の段階で、どういう方が対象で、いつだったら参加しやすいかを考えながら進めているが、なかなか全てを夜間にするとか土曜日でやるということが講師の方の都合もあり難しいところである。今後検討していきたいと思う。

働いている方や小さなお子さんがいる方からすると、興味があってもなかなか参加できないと思う。可能性としてオンラインとのハイブリッド方式にするとかの対応が出来るといいと思う。

**委員** 自分が当事者にならないと、問題や課題を知るためのイベントに参加する一歩が進まない。

- 委員長** 開催日を平日や週末も織り交ぜながらやれるといいが、今出来ることとしてハイブリッドはすごくいいと思う。
- 所長** 行政の発信がなかなか届きづらいところもあり、オンラインで夜間やっているから集まるかという難しい。基本当センターの講座には全部保育がついているので、保育があるから申し込んだという方もいらっしゃる。開催時期と区の発信をどう届けるかということが課題である。
- 委員長** エポック10の認知度がまだまだ弱いので、どうやったら皆さんに知ってもらえるかが長いテーマである。認知拡大に関して、この委員会を通じて皆さんに知恵を出し合っていたきたいと思う。質問だが、出張まちなか保健室の X の閲覧数が 8,093 と他のものと比較すると非常に伸びている印象があるが、特別な施策を行ったのか。
- 所長** 複数回 X で投稿しており、その合計数である。
- 委員長** SNS の投稿数を増やしたら閲覧数も増えたという成功事例だと思う。そういう積み重ねで知っていただく機会を増やせると思う。ただ閲覧数のわりに参加者が少なかったのはなぜか。
- 所長** その日は非常に悪天候であり、参加予定だった方も当日キャンセルなどあった。
- 委員長** 認知を拡げて予定を立ててもらうには何回もやるのがとても大事である。投稿回数を増やすのが第 1 ステップであると思う。
- 委員** なにかインセンティブがあればイベントの参加数が増えると思う。フェスタの時の防災食は反応が良かった印象がある。
- 所長** 防災食は問い合わせが来るくらい反応が良かった。プレゼントがあることはいいとは思っている。
- 委員長** そのために新しく予算をとるのは本末転倒だが、賞味期限が近づいて破棄してしまうのであれば配ったほうがよいと思うが、その辺のコントロールが難しい部分はあると思う。
- 委員** 過去にやった講座はアーカイブが残り、後からでも見られるのか。
- 事務局** 例外はあるが基本的には見られない。
- 委員** アーカイブを残し認知度を広めて、参加したい気持ちにさせていくことが大事であると思う。権利の問題もあるかもしれないが、出来るだけ残す前提のコンテンツにしないと損なうと思う。
- 委員** 開催しているイベントがこんなに沢山あったというのが驚きである。予算が取りづらいというお話もある中で、毎月コンスタントにイベントをやっているのがすごいと思う。その予算の中でイベントや施策を行っているのか。
- 事務局** 毎年、一定回数の講師料を取りその範囲内で実施するという形をとっている。
- 委員** エポック10の企画だけでなく、他の団体がやってくれているものもある。
- 事務局** 実際、企画自体は共催の相手方の団体がやって下さったりもしている。
- 委員長** 全部が豊島区メインという訳ではない。
- 委員** PR が届かないのが課題であり、なかなか難しいと思う。豊島区の LINE の利用率とか状況はいかがか。
- 事務局** LINE の利用率までは把握していない。現状、区のアカウントは広報課で管理をしているが、個別のイベントの周知は LINE では出来ないことになっている。
- 委員** どうやって広報をしていくかは永遠のテーマであり、毎回課題になっている。SNS やネットを使えないかということも10年も前からフェスタの方で言っていたが、最近やっと LINE や X を使ってもらえるようになったというのが実感である。管理や予算など区の事情もあると思う

が、声を上げ続けることしかないと思う。それと9番だが定員数が35名に対して参加者数が46名とオーバーしている。こういう方たちは何を情報源として集り、どういう年代層のどうい  
う方たちが参加したのか興味がある。

**事務局** 実際に出席された方は若年女性の支援をやってらっしゃる方や主催団体の関係者・支援者の方  
がいらっしゃったと把握している。

**委員** 協賛とか後援とか、どういう立場で豊島区が協力しているかということで、残しているもの、  
残していないものがあるのか。

**事務局** そういうケースもあると思うし、例えば「～月間」などでその月はいろいろなイベントをやります  
という時は、その月の間はずっと表示されているケースもある。原則はイベント当日までと  
なっている。

**所長** ホームページはアーカイブ的には使わないというルールがあり、写真とか容量が大きくなって  
しまうので、原則としては今お知らせするもののみである。

**委員** あと2番だけ申込数が多いのはどうしてか。

**所長** 公益財団法人との共催の、就職合同相談会のようなもので、先方でも周知している為である。

**委員** 共催のときも助成金が出たり予算が付いたりするのか。

**事務局** 助成金はない。エポック10登録団体との共催であれば、利用料なしで会議室を借りられるこ  
とや、広報は区の方でやるというような役割分担でやっている。今年度実施した団体では、そ  
の団体の方が講師を務められており、講師料自体がかからないケースも多い。

**委員** 区報に載ると参加者も増えるので、もう少し間口を広げた方がよいのでは。

**委員長** ターゲットに合わせた認知拡大策を行うと思うが、若年層であれば SNS がいいし、年配の方  
であれば紙媒体とか区報もいいと思うが一律揃えるのは難しい。事務局側が主催者をコントロ  
ール出来ない部分もあり、一概にこちら側だけでは動けないというのはテーマとしてあると思  
うので、改めて議論させていただきたいと思う。

**事務局** 資料 2-3 「R6 年度第 3 回運営委員会 事業報告(相談 G)」の説明

—委員からの質疑および意見なし—

**事務局** 【議題 3】エポック10フェスタ2025について

—エポック10フェスタ2025の説明—

- ・実行委員は鈴木委員、渡辺委員に決定。
- ・キャッチフレーズ案については、10月中に各委員のキャッチフレーズ候補を事務局に送り、事  
務局が集計したものから委員に投票してもらい、案を決定する。
- ・メインイベント講師案については、本日決めずにメールで回答いただく形となる。
- ・プレフェスタについて、運営委員会としては来年度も開催の意向となる。

【議題 4】連絡事項

**委員長** 続いて次回の運営委員会の日程を決めたい。  
(日程調整)  
次回開催は令和7年1月10日(金)15時からとする。  
その他、連絡事項やご質問があれば挙手をお願いします。  
(挙手なし)

以上で第3回男女平等推進センター運営委員会を終了する。

提出資料	資料1-1 豊島区立男女平等推進センター運営委員会設置要綱 資料1-2 第32期・第33期・第34期豊島区男女平等推進センター運営委員 名簿 資料2-1 R6年度第3回運営委員会 事業報告(庶務・計画調整 G) 資料2-2 R6年度第3回運営委員会 事業報告(事業企画 G) 資料2-3 R6年度第3回運営委員会 事業報告(相談 G) 資料3 過去のキャッチフレーズ・メインイベント講師一覧
------	--